様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１６３０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３７３０８３７

研究課題名（和文）昭和戦前期の歴史教育情報メディアによる学知の創出とその体系化に関する研究

研究課題名（英文）Research on the creation and systematization of the study intellect with the history education information medias in the earlier period of war of the Showa era

研究代表者
福田　喜彦（FUKUDA, YOSHIHIKO）

愛媛大学・教育学部・准教授

研究者番号：３０５１０８８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,000,000円、（間接経費）　600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は，昭和戦前期の歴史教育情報メディアにおける学知の体系化を図ることである。本研究で取り上げる歴史教育情報メディアとは，昭和戦前期に刊行された歴史教育に関する雑誌とその刊行物である。これらの歴史教育情報メディアは，初等教育・中等教育の教員に歴史教育に関する様々な情報を提供し，教員としての資質を高める上で重要な機能を果たしていた。そこで，本研究では，昭和戦前期に活躍した歴史教師たちが歴史教育に関する学知をどのように創出しながら，自らの歴史授業へと生かしていったのかを解明した。

研究成果の概要（英文）：A purpose of this study is to plan systematization of the study intellect in the history education information medias in the earlier period of war of the Showa era. The history education information medias to take away in this study is a magazine about the history education that a Showa war is in the first half, and was published and the publication. I offered various information about the history education to the teacher of an elementary course, the secondary education, and these history education information medias performed an important function in raising the nature as the teacher. Therefore I elucidated it while a war of the Showa era was in the first half, and history teachers who played an active part created study intellect about the history education in this study how whether you kept it alive to own history class.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：メディア　学知　教育雑誌　昭和戦前期　東京高等師範学校　歴史授業　歴史教育　歴史教育情報

１．研究開始当初の背景

近年，教育雑誌に着目した研究が戦前教育学の分野で積極的に展開されている点が本研究の学術的背景としてあげられる。例えば，先駆的な研究では，文部省教員検定試験と戦前教育学を分析した寺崎昌男らの研究があり（寺崎昌男・「文検」研究会編『「文検」の研究』学文社，1997 年），この「文検」の研究は，戦前の中等教員に期待された専門的知識や教職教養を各教科の試験問題から分析する形に発展している（寺崎昌男・「文検」研究会『「文検」試験問題の研究』学文社，2003 年）。特に，「文検」の研究では，戦前期に刊行された「文検」のための受験雑誌に掲載された試験問題の分析から中等教員に求められた学知を明らかにしている点が注目される。また，近代日本教育雑誌にみる情報の研究として菅原亮芳らは，明治・大正・昭和戦前期の受験情報雑誌を分析している。

菅原らは，明治中期から昭和戦前期を対象として，雑誌メディアや進学案内書のような定期的に刊行された雑誌がどのような教育情報を発信したのかを実証的に明らかにしている（菅原亮芳編『受験・進学・学校』学文社，2008 年）。ここでは，書誌的研究に留まらず，進学・学校に関する教育情報がいかに提供されたのかを教育雑誌から考察している点に特徴がある。

上記の先行研究では，教育雑誌というメディアによってもたらされた情報を「文検」「学校」「受験」「進学」などを鍵概念として，読み解くことで戦前教育学を重層的に描き出している。しかし，社会科教育学の分野ではこれらの教育雑誌を分析対象とする研究は十分ではない。昭和戦前期には，『研究評論歴史教育』（1926 年創刊），『地理歴史教育』（1929 年創刊），『国史教育』（1932 年創刊），『最新史観国史教育』（1935 年創刊），『実践国史教育』（1936 年創刊）などの歴史教育を専門とする教育雑誌が次々と刊行された。これまで申請者は，これらの歴史教育雑誌の論考の分析から昭和戦前期の歴史教育の理論と実践を考察してきた。さらに，平成２０・２１年度科学研究費補助金若手研究（スタートアップ）の交付を受け，昭和戦前期の高等師範学校附属小学校の歴史教育実践を「説話」「理解」「作業」「合科」の４つの視点で類型化し，その歴史授業の特色を明らかにした。

そこで，本研究では，これまでの研究成果を発展させ，昭和戦前期の歴史教育情報メディアにおける学知の体系化を図ることを目的とした。

２．研究の目的

本研究の目的は，昭和戦前期の歴史教育情報メディアにおける学知の体系化を図ることである。

本研究で取り上げる歴史教育情報メディアとは，昭和戦前期に刊行された歴史教育に関する雑誌とその刊行物である。これらの歴史教育情報メディアは，初等教育・中等教育の教員に歴史教育に関する様々な情報を提供し，教員としての資質を高める上で重要な機能を果たしていた。

本研究では，昭和戦前期に活躍した歴史教師たちが歴史教育に関する学知をどのように創出しながら，自らの歴史授業へと生かしていったのかを解明するために，四海書房が刊行した『歴史教育講座』（全 14 集）と晃文社が刊行した『実践国史教育体系』（全 10 巻）を主な分析対象にして検討した。

３．研究の方法

本研究では，昭和戦前期の歴史教育情報メディアにおける学知を体系化するために，昭和戦前期に発刊された歴史教育雑誌とその刊行物を対象に分析した。

これまで申請者は，昭和戦前期の歴史教育雑誌のデータベース化に取り組んできた。また，これらの史料をもとに，初等教育における具体的な授業実践のレベルでの分析も進めてきた。しかし，歴史教育の理論と実践の背景となる学知を初等教員がどのように創出していたのかという課題は残されたままである。

そこで，本研究では，歴史教育情報メディアから発信された歴史教育に関する学知が初等教育における理論や実践に与えた影響を次の手順で検討した。①四海書房の『歴史教育講座』（全 14 集）の論考や晃文社の『実践国史教育体系』（全 10 巻）の論考をデータベース化する。②昭和戦前期に刊行された歴史教育雑誌との関連も含めて，「専門的学知」「理論的学知」「実践的学知」の３つの視点で各歴史教育論を考察する。③昭和戦前期の歴史教育情報メディアにおける学知の体系化を図った。

４．研究成果

平成２３年度は，『歴史教育講座』（全 14 集）の分析を行った。その際，これまでの研究で進めてきた『研究評論歴史教育』『地理歴史教育』『国史教育』『最新史観国史教育』『実践国史教育』などの歴史教育雑誌も含めて分析することで，初等教員に求められた歴史教育に関する学知を体系化する基礎的な作業を行った。また，国立国会図書館や大学図書館，各種研究機関などにも出向いて関連する歴史教育関係の図書も収集

した。本年度の研究は，以下に示した手順をもとに進めた。
本講座の全 14 集の執筆者と冊子をデータベース化した。本講座は，各集ごとに「理論編」「資料編」「方法編」で構成されていた。そこで，本年度は，「資料編」を取り上げてデータベース化した。
「資料編」には，各時代を専門とする代表的な歴史学者が執筆を担当していた。具体的な執筆項目を見てみると，「古代史」「飛鳥奈良時代史」「平安時代史」「鎌倉時代史」「室町時代史」「吉野時代史」「安土桃山時代史」「江戸時代史」「明治維新史」「現代史」などが執筆されていた。ここでは，歴史学者がそれぞれの時代をどのように描いていたのかを明らかにすることで，国史科を担当した初等教員がどのような時代像をもって歴史授業に取り組んでいたのかという「歴史学」と「歴史教育」の接点を把握することができた。また，『歴史教育講座』では，「歴史学」のみの学知だけでなく，考古学や民俗学，国文学といった他の分野の学者たちも学知を提供していた。「資料編」には，「政治法制史」「社会史」「経済史」「外交史」「思想史」「宗教史」「韻文学篇」「散文学篇」「美術史」「考古学」「民俗学」「朝鮮史」などが執筆されていた。昭和戦前期の初等教育では国定教科書をもとに歴史授業が行われていたが，これらの分析を通して，初等教員たちが教材研究を進める上で，どのように多様な学問的成果を『歴史教育講座』から創出していたのかを解明できた。
平成２４年度は，前年度に続いて『歴史教育講座』(全 14 集）を分析するとともに，『実践国史教育体系』（全 10 巻）の分析も行った。これらの分析を通して，昭和戦前期の歴史教育の理論的な学知の体系化を図った。また，歴史教育研究会が刊行した著作物についても収集・分析した。前年度と同様に本年度においても，国立国会図書館や大学図書館，各種研究機関などにも出向いて関連する歴史教育関係の図書を収集した。本年度の研究は，以下に示した手順をもとにして進めた。特に，本年度は，「理論編」を取り上げてデータベース化した。
「理論編」には，帝国大学や高等師範学校の教授たちが主に執筆を担当していた。具体的な執筆項目を見てみると，「歴史教育原論」「日本に於ける歴史教育の基調」「最近歴史教育思潮」「日本歴史教育史」「現代歴史学思潮」「日本に於ける史学理念の展開」「支那史学発展史」「歴史哲学と歴史的認識の方法」「最近教育思潮と歴史教育」「我が国に於ける国家意識の発展」「国民教科としての歴史教育」「女子教育と歴史教育」「外国史教育論」「歴史の学習心理に関する二三の問題」「国史教育に於ける学力測定」「海外歴史教育展望」などが執筆されていた。ここでの分析視点は，①国内外の歴史教育に関する動向をどのように捉えていたのか，②歴史学習への心理学的なアプローチや成績評価はどのように考えられていたのか，③歴史教育の理論の学術的背景は何だったのか，④歴史教育で「女子教育」や「郷土史」といった時事問題的な教材はどのように取り扱われていたのかの４つの視点であった。これらの課題を検討するために，『実践国史教育体系』の関連する刊行物として，栗田元次（広島高等師範学校教授）『国史教育の本質（第１巻）』，高橋俊乗（京都帝国大学講師）『教育思潮と国史教育（第２巻）』，石山脩平（東京高等師範学校教授）『国史教育と解釈学（第３巻）』，丸山良二（東京高等師範学校講師）『国史学習の心理（第４巻）』などの歴史教育の理論書も検討した。
平成２５年度は，前年度に続いて『歴史教育講座』(全 14 集）を分析するとともに，実践的な学知の創出と形成の過程に焦点を当てて，『実践国史教育体系』（全 10 巻）の分析を行った。前年度と同様に本年度においても，国立国会図書館や大学図書館，各種研究機関などにも出向いて関連する歴史教育関係の図書を収集した。本年度の研究は，以下に示した手順をもとにして進めた。特に，本年度は，「方法編」を取り上げてデータベース化した。
「方法編」には，帝国大学や高等師範学校の教授たちが執筆した「歴史教育関係教材」と高等師範学校附属小学校の訓導や中学校の教諭たちが執筆した「標準小学国史指導案」の２つがまとめられていた。具体的な執筆項目を見てみると，「歴史教授法概論」「歴史の新指導法と其の機構」「国民精神関係教材」「思想史宗教史関係教材」「社会史経済史関係教材」「芸術史関係教材」「外来文化及内鮮関係教材」「歴史考査法」「郷土史指導上の諸問題」などが執筆されていた。ここでは，まず，学問的な成果がどのように歴史授業として教材化されていったのかを検討した。次に，「標準小学国史指導案」の各学年の各課ごとの「題材」「要旨」「教材観」「実践指導」「準備」「時間配当及び区分」といった項目を分析した。「指導案」には，「教材配当表」が示され，尋常科５・６年生と高等科１・２年生向けに月毎の「指導案」が提供されていた。そこで，高等師範学校附属小学校の訓導らが執筆した『実践国史教育体系』の以下の巻と合わせて，歴史教育の実践的な指導法がどのように提示されていたのかを検討した。
このように本研究では，昭和戦前期に活躍した歴史教師たちが歴史教育に関する学知をどのように創出しながら，自らの歴史授業へと生かしていったのかを解明することができたが，分析対象とした歴史教育雑誌はほかにも存在しているため，それらの収集およびデータベース化を進めて，今後さらに分析をしていくことが課題である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　４　件）

①福田喜彦「昭和戦前期の歴史教育における「実践的学知」の創出と再構築のプロセスー全国地理歴史訓導協議会での議論を中心にしてー」『日本社会科教育学会全国大会発表論文集』第 9 号, 日本社会科教育学会, 2013 年, 216-217 頁。（査読なし）
②福田喜彦「昭和戦前期の歴史教育における「教育評価」と「学力測定」の射程―国史学習の心理と成績考査の論理―」『日本社会科教育学会全国大会発表論文集』第 8 号, 日本社会科教育学会, 2012 年, 72-73 頁。（査読なし）
③福田喜彦「昭和戦前期の歴史教育における「女性史」論の展開ー歴史教育情報メディアの分析をもとにー」『日本社会科教育学会全国大会発表論文集』第 7 号, 日本社会科教育学会, 2011 年, 96-97 頁。（査読なし）
④福田喜彦「昭和戦前期における歴史教育情報の受容と初等教員の資質形成ー『歴史教育講座』の構成とその特色の検討からー」『愛媛大学教育学部紀要』58, 2011 年, 191-208 頁。（査読なし）

〔学会発表〕（計　４　件）

①福田喜彦「昭和戦前期の歴史教育における「実践的学知」の創出と再構築のプロセスー全国地理歴史訓導協議会での議論を中心にしてー」日本社会科教育学会, 2013 年 10 月 27 日, 山形大学。
②福田喜彦「昭和戦前期の歴史教育における「女性史」論の生成と展開ー歴史教育情報と教育メディアの関係をもとにー」中国四国歴史学地理学協会, 2013 年 6 月 9 日, 鳴門教育大学。
③福田喜彦「昭和戦前期の歴史教育における「教育評価」と「学力測定」の射程―国史学習の心理と成績考査の論理―」日本社会科教育学会, 2012 年 10 月 29 日, 東京学芸大学。
④福田喜彦「昭和戦前期の歴史教育における「女性史」論の展開ー歴史教育情報メディアの分析をもとにー」日本社会科教育学会, 2011 年 10 月 22 日, 北海道教育大学。

〔図書〕（計　１　件）

①福田喜彦『昭和戦前期初等歴史教育実践史研究』風間書房, 2012 年, 1－438 頁。

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

６．研究組織

(1)研究代表者

福田　喜彦（FUKUDA YOSHIHIKO）
愛媛大学・教育学部・准教授
研究者番号：30510888

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし